

やんばる野生生物保護センター「ウフギー自然館」活動報告

講演会「施設におけるバリアフリーの話」

やんばる自然体験活動協議会(国頭村・大宜味村・東村・沖縄県・環境省で構成)主催、やんばる野生生物保護センター共催による講演会「施設におけるバリアフリーの話」と題して、平成23年3月1日(火曜日・午後6時30分～午後8時)ウフギー自然館レクチャールームで、NPO法人バリアフリーネットワーク会議の親川修氏を講師に迎え、高齢者や障害者に配慮した施設作りや案内のポイントについて話していただきました。

「バリアフリーネットワーク会議」では那覇空港の、障害者、高齢者、観光案内所でバリアフリー情報の発信事業を行っており、一月に平均600件の利用者があるといいます。沖縄の観光も今後、修学旅行から高齢者や障害者の旅行に移行、また、その市場は大きいということです。

バリアフリーに関する日本の関連法律の変移についてもふれ、このような法律ができた背景に高齢化社会が進んでいる事実があり、今後10年後、国民の3割が高齢者となり、労働者人口が減ること。沖縄が観光で生き残るために大事なことは環境を守ること。環境が破壊されたらなんの魅力もないこと。そして観光客を満足させないと沖縄の観光はつぶれてしまうと指摘しました。

沖縄は4年前に県知事が全国に先駆けて観光バリアフリーを宣言し、高齢者や障害者にストレスのないまちづくりを目指しているが、観光地ではいかに客にストレスを感じさせずにスムーズに移動できるかが重要だということ、今後必要になってくるのは、加齢にともなう障害の配慮ができていないか、いないかでそれが観光施設のキーポイントとなると、数々の事例をとりあげてわかりやすく話してくれました。

高齢者や障害者の最大のバリアは自然であり、自然環境を守りつつ、すべての人がその自然を享受できる社会をつくるのが大切というお話もありました。また、火事で車イスの高齢者が逃げ遅れて死亡した事例をあげ、事故や災害のときにはすべての人が安全に逃げられるように観光地としてハザードマップを作成する必要があると重要性を伝えてくれました。

今回の講演会では参加者達が実際に視覚ゴーグルをつけて高齢者白内障の体験をしたり、2種類の車イスでその用途の違いや扱い方の注意を知ることができました。

参加した人達からは、「視覚ゴーグルの体験や話を聞いて高齢者の立場になってみることができ、とても参考になりました。」という感想がありました。



バリアフリーとユニバーサルデザインの違いについては、バリアフリーはもともとあった施設を障害のある人のためにスロープを作ったり、じゃまになるのを除去したり障壁を取り除くこと。ユニバーサルデザインとは最初からすべての人が利用しやすいようにデザインすること。その言葉の意味を説明していただきました。